

# 一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号	6
	令和 元年	8月28日
	午前・午後	2時20分

議会名	令和 元 年 第 3 回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号 11番 本郷 淳一		
答弁を求める者 (選択してください)	<input type="checkbox"/> 市長 ・ <input type="checkbox"/> 副市長 ・ <input type="checkbox"/> 教育長 ・ <input type="checkbox"/> 担当部局長		
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
1. クリケットのまちづくり について  (1) 19歳以下ワールドカ ップ出場について          (2) 市民の認知度向上につ いて	①ワールドカップ出場についての本市の見解 佐野市国際クリケット場で開催された、19歳以下ワールドカップ東アジア太平洋予選において日本代表が優勝し、来年1月に南アフリカで開催される本戦に出場することが決定した。日本代表メンバー14人のうち、3名が佐野市民のプレイヤーである。そこで、この快挙に対する本市の見解を伺いたい。  ②本市の対応 19歳以下ワールドカップ本戦出場は、本市クリケットのまちづくりに大きな弾みとなると考えるが、この好機を捉えどのように盛り上げていく考えなのか伺いたい。  ①市民の認知度把握 クリケット及びクリケットのまちづくりに対し、市民の認知度はどの程度か伺いたい。  ②市民の認知度向上策 市民の認知度を向上させるために、どのような事を実施する考えか伺いたい。		

<p>(3) 「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトについて</p>	<p>③試合のケーブルテレビ放送 市民の認知度を向上させるためには、常に試合を見る機会を増やし、自然にルールも覚え、クリケットの魅力や醍醐味を知って頂く環境を創出しなければならないと思う。そこで、ケーブルテレビで試合を放送することが大変重要であると考え、当局の見解は。</p> <p>①名称の違いとそれぞれの目的 「クリケットタウン佐野」や「佐野クリケットチャレンジ」等、色々な名称が出てくるが、具体的にはどのような違いがあるのか、また、それぞれの目的を伺いたい。</p> <p>②今までの活動と実績 今までにどのような活動を展開し、どのような実績があるのか。</p> <p>③今後の展開 今後の展開と最終的なグラウンドデザインを伺いたい。</p>
<p>(4) 今後の方向性について</p>	<p>①校舎活用及び付帯設備の充実 国際クリケット場としてグラウンドが整備されたが、選手の更衣室やシャワールーム、ミーティングルーム等がなく、国際クリケット場としては、整備の途中である。今後、さらなる発展を目指すためには、校舎の活用や付帯設備の充実が不可欠であると考え、当局の見解は。</p> <p>②経済波及効果の確認 本市のリーディングプロジェクトとして、クリケットを活用しまちづくりを推進している。そこで、経済波及効果を定期的に把握することにより、より適切な施策が展開できると思うが、実施する考えはあるか伺いたい。</p>

<p>2. 中高年のひきこもり対策について</p> <p>(1) 偏見への是正について</p> <p>(2) 実態調査の実施について</p> <p>(3) 本市の支援体制について</p>	<p>③各部からクリケットを活用した事業案募集 本市のリーディングプロジェクトとして、クリケットを活用したまちづくりを推進するためには、全市をあげて盛り上げていかなければなりません。そこで、各部からクリケットを活用した事業案を募集することを提案しますが、当局の見解は。</p> <p>①当局の見解と対策 川崎市の路上で児童が殺傷された事件や元農林水産省次官の長男殺傷事件等の報道で、ひきこもる人への偏見を助長しかねないと懸念する声が上がっている。そこで、当局の見解と対策を伺いたい。</p> <p>①実態調査の実施 内閣府の実態調査では、40歳から64歳までのひきこもりは、全国で61万3千人に上るとの発表があった。本市も実態調査をするべきと考えるが当局の見解は。</p> <p>①庁内で縦割りを超えた連携 生活が困窮する人からの相談には、担当課だけでは解決しないケースが多い。孤立防止「断らない相談」の実施が大変重要であり、そのためには、庁内の縦割りを超えた連携が必要と考える。そこで、本市の現状と今後の対策について伺いたい。</p> <p>②官民のネットワーク 行政だけでは、解決できない問題も多いため、医療機関、自治会や民生委員、地域のNPO法人等とネットワークを構築し、ひきこもりの人に寄り添っていくべきと考えるが、現状と今後の対策を伺いたい。</p>
---	--

(4) ポラリス☆とちぎとの  
連携強化について

①サポーターの現状と強化策

栃木県こども若者・ひきこもり総合相談センター「ポラリス☆とちぎ」は、平成26年に開設され、各市のサポーターを養成し、中高年も含め相談体制の強化を図っている。本市も積極的に対応しているが、その現状と今後の強化策を伺いたい。

②分室の設置

「ポラリス☆とちぎ」は宇都宮にあるため、遠隔地の住民が、直接相談に訪れるのは容易ではない。これを解消するためには、地域ごとに分室を設置することが大変重要です。県の施策となるが、当局も積極的に働きかけをすべきと考えるが、当局の見解は。